

蘇民将来について

八日堂信濃国分寺

蘇民将来とは、古代より日本各地に広まった蘇民信仰、蘇民説話にもとづくお守りです。蘇民将来という慈悲深い人にあやかって、このお守りをまつる家は厄災をのがれて代々繁栄すると伝えられています。信濃国分寺の蘇民将来符は五百年以上の伝統があり、格調の高いデザインと、地元民の手作業で作られているため全国的に有名です。毎年1月7日午後から8日の八日堂大縁日にこのお守りが授与されます。

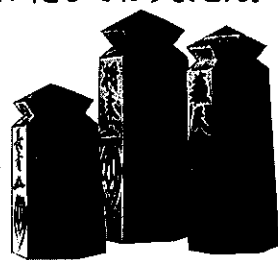
この蘇民将来の原木はドロヤナギ（ヤマナラシ）です。木目が目立たず加工しやすいこと、薬木と言われていることなどの理由で、国分寺ではこの木を使います。蘇民将来は、昔より「蘇民講」と呼ばれる地元農民の組織によって、農閑期の仕事として作成されてきました。

形が出来上がると寺に納められ、住職等によって文字や文様を書きこまれます。そしてご祈禱をした上で、縁日に授与されます。蘇民将来は大小7種類ほどあります。また蘇民講の各家ごとに七福神の絵を描いた蘇民も人気があります(1月8日、朝8時より)。

なお、蘇民将来符は正月の縁日のみの限定です。予約注文・送付等はいたしておりません。ただし高さ3寸(約9センチ)の1種類のみは常時、国分寺にお参りの方にお頒けしております。蘇民将来は、玄関や屋内の棚、神棚などに安置します。

地元の山林から切り出した貴重な原木を生で使用しております。節目やヒビ割れがある場合もございますが、工芸品ではなく護符ですのでご理解下さいますようお願いいたします。

上田市国分1049 信濃国分寺



蘇民将来符のいわれ

天平十三年(七四二)聖武天皇の勅願によって国土安穩のため創建された当信濃国分寺八日堂で、古来より守られているのが蘇民将来の護符である。(蘇と蘇は同字)

蘇民将来という情深い者が巨丹長者に宿をことわられた旅人を厚く遇し、その言葉にしたがい柳の木に「蘇民将来子孫人也」と書き、これを携帯し門戸にかけ、その子々孫々が災厄をまぬがれ繁栄したという説話による。

この旅人は薬師如來の化身である牛頭天王であって奈良時代からこの信仰が広くひろまり薬師如來や牛頭天王をまつた各地の社寺では「蘇民将来子孫門戸也」と書いた紙札や板の御守などを出されたが、現在まで伝わっているものは極めて少なく、当寺のものが最も著名である。それは当寺に文明十二年(四〇八)「牛頭天王祭文」と称する蘇民将来縁起の古写本が保存されていること、六角形の形状や墨と朱の図柄が郷土美術として格調が高いこと、農民美術発祥の地である当地の農民が参予していること、さらに正月の開運招福を祈る「大福長者」が書かれることなどであろう。

正月七日八日の縁日には、遠近の参詣者がこれを求め帰り門戸にかけ、屋内の棚に安置し、或いは懷中に携帯して、除災開運を祈願したのが当地の古くからの伝承で、よことに「国泰人衆・災除・福至」のための国分寺建立の詔にふさわしい靈符である。